

# 助成年度：平成7年度

[所属] 滋賀県

[役職] 顧問

[氏名] 吉良 竜夫 (他計10名)

[課題]

## 熱帯の陸水における生態系保全と集水域管理

－課題と研究方法の検討－

[内容]

熱帯湖沼の生態系保全にむけた集水域管理の在り方を探る調査・研究の方法を検討するため、スマトラ島にあるインドネシア最大の湖である、トバ湖およびジャワ島にあるサグリンダム湖を対象に選び、陸水学的な特徴、集水域における植生や土地利用状況を文献と過去の調査経験により把握し、それぞれの湖がかかえる課題を明らかにした。これらの湖では、集水域の環境破壊が著しく、森林の消滅により水文学的な変化も生じ、土壌の侵食も著しい。また、汚濁負荷削減対策も十分なされていないため、湖の水質悪化、生態系破壊が進んでいることが危惧されるが、正確な現況を把握するための資料にとぼしく、生物を含む陸水学的な特徴を明らかにする基礎的研究がまず必要であることが指摘できる。以下の事項に焦点を絞ることによって効率よい調査が可能になるものと思われる。

1. 熱帯湖沼においては種の多様性を明らかにする調査、熱帯湖沼に特有な陸水学的現象や水質特性を明らかにする調査が急務である。その場合、生物の生息の場として沿岸域は特に重要であると思われる。
2. 湖岸域の管理、利用の実態はほとんど明らかになっていない。湖岸の自然環境保全にむけた調査が必要である。
3. 土壌侵食が大きい湖沼が多く、流入した土壌粒子の水質や生物に対する影響を評価することが重要である。また、富栄養化防止のための集水域管理とともに土壌侵食対策が重要課題となっている。
4. これら集水域問題と湖沼の水質保全、生態系保全の関連を解析するため、トバ湖などに対象を絞ったケーススタディーが有効と思われる。
5. インドネシア研究者との共同研究を進めるにあたり、相互理解はもとより、技術移転も考慮した協力体制を作り上げる必要がある。